

元気な高齢者が集う町へ 御代田町の介護に迫る



超高齢化社会へ向けて

少子高齢化が全国的に進展し、今後これまでに経験したことのない超高齢化社会を迎える日本。

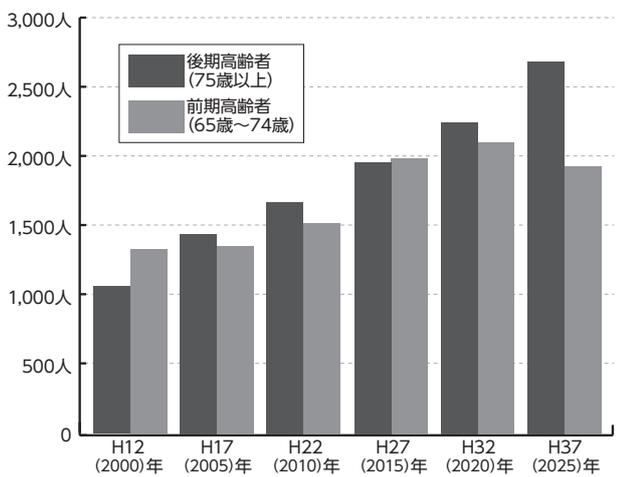
御代田町においては、出生率、年少人口割合などが県内でも上位で、人口は増加しているが高齢者人口、高齢化率はともに増加してきています。

平成12年に約6人に1人だった65歳以上の高齢者が、平成27年では、約4人に1人となり、団塊の世代(昭和22～24年に生まれた人)が75歳以上になる平成37年には、約3人に1人が高齢者になると推計されます。

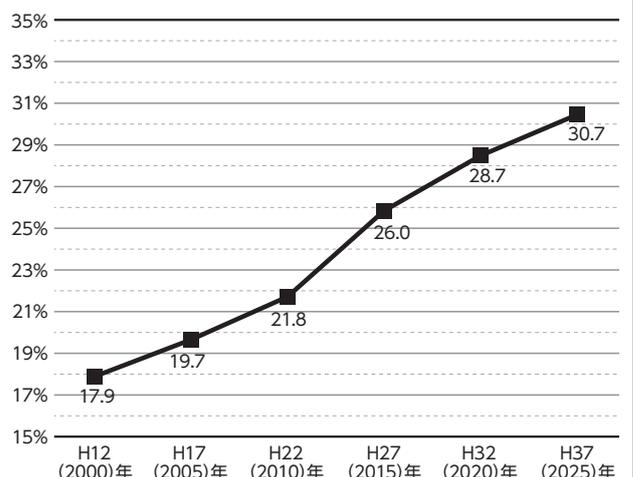
誰もが住み慣れた町で、いつまでも元気に暮らしているように、御代田町では自立支援に向けた働きかけを強化し、適切な介護保険サービスの提供や介護予防事業の充実に向けた取り組みを行っています。

今回は、全国各地から視察に訪れ、注目を浴びている御代田町の介護に迫ります。

御代田町の高齢者人口



御代田町高齢化率(65歳以上)



元気な高齢者が集う町へ 御代田町の介護に迫る

介護保険とは

介護保険は、介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていただけることを目指すとともに、いつまでも自立して生活を送れるよう支援する制度です。もし、介護保険がなかったら介護サービスなどの費用負担は全額自己負担となってしまいます。つまりは、介護にかかる費用が非常に高額となるため、多くの人は十分な介護サービスを受けることができなくなり、1回、ヘルパーさんと呼ばれるだけで数万円もかかってしまうようでは、継続してサービスを受けることはほとんど裕福な人でない限り困難でしょう。介護保険はそんな大きな費用負担を、皆が出し合う介護保険料で支えています。その介護保険制度があるおかげで現在、本人の負担額は1割所得により2割で介護サービスを受けられるのです。40歳以上の方は、決められた保険料を納めています。その保険料や税金を財源とするので、介護が必要な方は、費用の一部を負担するだけで様々な介護サービスを受けられます。

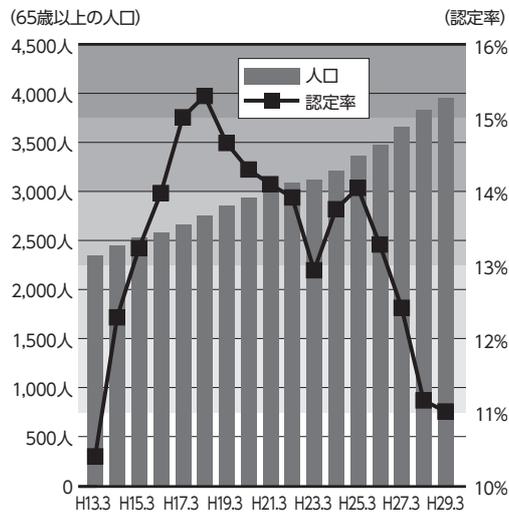
御代田町の現状

介護保険料は3年ごとに、介護サービスに必要な経費を計算して市町村ごとに算定されます。したがってサービスをたくさん使えば保険料は高くなり、その目安になるのが介護給付費(自己負担1または2割負担以外の費用)です。全国では年々増加し、10兆円を超えようとしています。御代田町はここ数年減少に転じています。

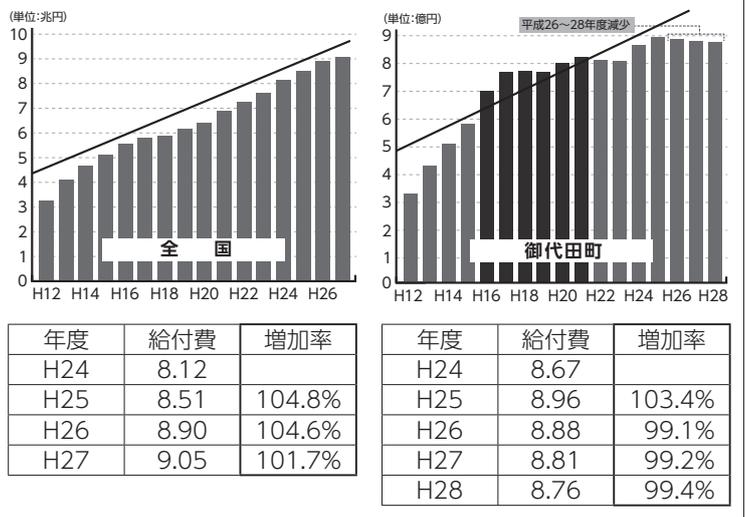
介護が必要になれば、必要なサービスを利用するのは当然ですが、誰もが元気で今の生活を続けることが望みです。

そこで、御代田町は自立支援の観点から介護予防事業に力を入れており、全国的にも注目されています。その結果、平成18〜20年度に県内で2番目に高かった保険料は、現在では63保険者(77市町村のうち広域連合で運営している市町村あり)中34番目にまでなっています。それは、出来るだけ介護状態にならずに自立した生活を送るための「ひとりひとりの気持ち(介護予防の意識)」が高いことの現れです。介護サービスを高利用するために必要な要支援・介護認定の率も県内では一番低く、全国では11番目(平成29年8月末現在)に低い保険者であり、元気な高齢者の集う町になっていることは、当町の自慢のひとつです。

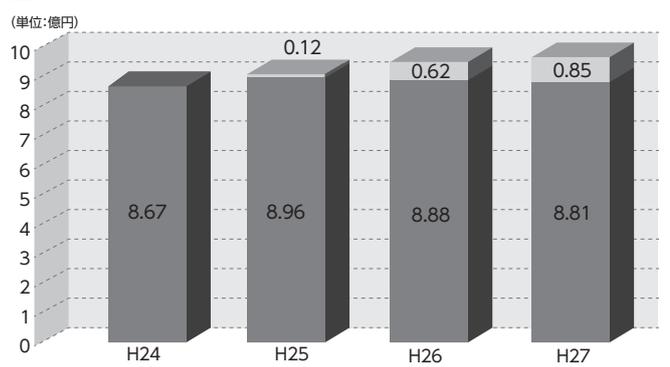
御代田町の要支援・介護認定率の推移



介護給付費の推移



国の増加率で計算した給付費



成果は町民益となる

平成24年度を基準として御代田町の給付費が国の増加率で増加した場合、平成27年度では、年間約8、500万円の増加していたこととなります。給付費の半分は国、県、市町村の負担となりますが、もう半分は40歳以上の方が納めている保険料で賄われます。8、500万円を現在の負担割合で計算すると年間一人あたり約5、000円の軽減となります。引き続き皆さんが、介護予防の意識を高く持っていたことで、保険料と税金の軽減につながります。